

青年会議所との懇談会 議事録

日時：平成 22 年 9 月 14 日（火）

19：00～21：00

場所：加西市役所 多目的ホール

【次 第】

1. 開会
JC 理事長挨拶
経営戦略室長補佐挨拶
2. 自己紹介
3. 総合計画の概要説明
4. 意見交換

【意見交換要旨】

◆ 人づくりについて

JC：長男が今年小学校に入学したが、単学級。6年間クラス替えがないとなると、「できる子、できない子」といったように順位が固定化してしまう。現在市が提案している統廃合案には賛成。クラス替えによって交友関係も広まり個性も育まれる。人格形成において重要な意味を持つと思う。

教育に力を入れていけば人口が流入し、人口増につながるのではないと思うが。

市：「教育に力を入れれば人口増につながる」これについては真剣に考えていくべき。小学校中学校は義務教育なので、教育に特色は出しづらいが、どういった教育が良いのかについて現在検討中。

JC：現在、学校統廃合の話はどこまで進んでいるのか。

市：素案では、今後 10 年を目途に統廃合したいと考えている。来年、再来年すぐ進めるというのではなく、条件が整った地域から進めていく。多くの課題があり、ハードルは高い。財政的な試算も行い、理論的には 10 年で試算している。2 年前のパイロットスクール構想などは内容や進め方においても無理があった。今回の素案はあくまでたたき台であり、市民を交え十分な議論が必要。

JC：2年前は各地域でタウンミーティングを行ったが、最近は？

市：2年前は、「この案で進めたい」という少々強引な面があったが、今回は「こういう方向で考えています」といった提案をしている。立ち上がりはゆっくりと進めたいと考えている。

JC：統廃合となるとスクールバスが必要になってくるが、試算に入っているのか？

市：具体的な内容はまだこれからの話合いだが、試算ではバスの費用も込み。
財政に関する提言は、「これだけ経費が削減できる」という意味ではなく、「現状11校を維持、耐震補強していく予算の範囲で、この提言内容は実現できる」という意味。
しかし、その一方で、遠距離通学者が増える、また、地域核がなくなってしまうという意見や課題がある。

JC：JCも人員減で合併の話がでてきている。統廃合のメリットがないと市民は不安を感じる。統廃合のメリットは？

市：素案では小中一貫を考えている。小6から中1になると、今まで小学校の最上学年であった子どもたちが、中学校では新入生から再度スタートする。先生も、今まで担任の先生が全て見てくれていたのが、教科担任制になって、授業の形態も環境も大きく変わる。そういう小学校から中学校への環境の変化やギャップに悩む子が多く出てくる。小中一貫なら、小1から中3まで9年間通して、年齢に合わせた教育環境をスムーズに提供できる。小学校の先生も中学校の先生もともに子どもを見守ることが可能になる。現在【6・3】制（小学校6年・中学校3年）だが、例えば【4・3・2】制で1～4年は基礎教育をしっかり、5年～中1は豊かな学習感覚を養い、中2、3で自ら学ぶ力と応用力を身に付けるなど、そのような学習内容や教育環境の変化を円滑に進めることができる。

JC：小中学校は義務教育だが、市独自に行えるのか？

市：小中一貫校においても、国の教育指針に則る方法と、独自の指針で行う方法があり、市独自で行うこともできる。

JC：市内でも兵教大付属小学校に通っている児童が少なからずいるが、逆のパターンで、加西にも付属小をつくれれば人口の流入が見込めるのでは？

市：住民基本台帳上の児童数と市内の学校に在籍する児童数を比較してみると、100名弱の児童が市外の学校に通っていることがわかる。

◆ まちづくりについて

JC：神戸のトアロードやフラワーロードのように、景観アップにつながる取り組みをしてはどうか。

市：市内でも道に雑草が繁茂している箇所が目立つ。耕作放棄地に繁茂している雑草を除去するには手続きが面倒。より簡易な手続きで除去できるような方策を模索中。ただし、あくまで住民主体で動いてもらうことが前提。

市：加西市にはフラワーセンターがあり「花のまち」として定着しており、北条まちづくり協議会や宇仁郷、横田でもそれぞれサルビアやコスモス、菜の花の等で地域を盛り上げている。市としてもまちづくりに力を入れている地域へのバックアップを行っていきたい。イベントを開催することで市外からの観光客が増え、結果的に定住へとつながるのでは。

JC：父の死後、放棄地になっていた田んぼに今年ひまわりを200本程度植えた。毎日のように田んぼに行くのは非常に大変。私の住む下里地区でも協議会が立ち上がればよいと思う。行政に訴えるばかりではなく、主体的に動かないといけない。

市：私達も、公務員である前に地域住民であるので、地域で主体的に頑張らないといけない。

JC：土地利用について。市街化調整区域の問題があり、加西に家を建てるのは非常に煩雑な手続きが必要。土地利用に制限があり、市外の者が加西に住むには見えない壁が多い。

市：農振法、都市計画法、建築基準法等は、農地保全や乱開発防止という趣旨の法律だが、結果として建物が建てにくくなるという弊害が起こっており、人口が増えにくい要因になっている。

規制するところはしっかり規制しているが、反対に住宅を促進していくべきところはしっかり促進しなければならない。その住宅促進がうまく機能していない。土地や宅地が流動化しておらず、物件や物件情報も不足している。

◆ 環境について

JC：加西にはため池が多く、希少生物も多く存在する。整備された池はよいが、手入れされていない池は環境破壊へとつながりやすい。子供が自然を守りたくなるような取組はあるか。

市：ため池には、農業用・生態系保持などの意味合いがある。景観を次世代に受け継ぐために、土地改良区が「池干し」を行っている。子どもたちにとっては貴重な生態系を実感できるよい機会となっている。

市：未公表であるが、ため池や山、田んぼの重要度を数値化（例：ため池 A=100 万 ため池 B=200 万）することで、ため池等の価値を住民に実感してもらいやすくする方法を検討している。

JC：加西には「花と緑のまち」というキャッチフレーズはあるが、加西といえば「○○」というのがなく中途半端。そこで、自然を活かした「ネイチャーパーク」を提案したい。京阪神からの交通の便も良いので、休日に気軽に遊びに行くなら「加西」といわれるようになれば。

市：せっかくなので、一人ずつ「加西ならこれだ」というものを話して下さい。

- 農業 ポット葉ボタン（=加西が発祥）のPR
- 「我々は加西人」→人間のブランド化
- 町を超えた里山整備の推進→気軽に里山に行ける環境づくり レジャー化
- 北条の節句祭りによる地域活性化
- 里山整備→加西のマツタケのブランド化
- ネイチャーパーク構想（レンタル農地、川遊び、ロッジ）
- 市民が主体となった人口流入策への取組→地域の活性化
- 冬の「朝もや」を活用した景観づくり（池、白鳥）
- 加西米のブランド化
- 上若井のトウモロコシ等、ディープな作物や商品の発信
- 玉丘古墳や根日女のPR
- いこいの村周辺をスポーツ施設として活用
- 空き家を利用した飲食店のオープン
- 地産地消を実現する流通の仕組み構築（三洋電機ゴパンの活用等）
- 加西の中心地である北条の地域価値をさらに高める。
- 「よそ者」を受け入れる気風づくり

- 人づくり（子どものしつけ、教育）がすべての根本
- 子育てしやすい街づくり 子育てのしやすさ→転入増→定住
その手法として①子育てしやすい環境の整備（男性の育児参加等）②保育・教育の充実→具体的には、上記のそれぞれの案を保育・教育の充実につなげていくことを目標に取捨選択し実施していくが重要。
- 災害の少ないまち

5. 閉会

JC 副理事長挨拶